

令和5年度 シラバス

整理番号

TF書道Ⅰ12

教科名	芸術科	科目名	書道Ⅰ		
履修学年	1年 学年	履修	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	単位数	2 単位
使用教科書 副教材等	教育出版 書道Ⅰ				
学習の目標	書道の学習においては、感性を働かせて直観的に作品の良さや美しさをとらえる。				

●どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【目指す能力とその次元】

評価の 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技術を身に着け、表している。	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしている。	書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価方法	(知能) 定期考査 (技能) 提出作品 手本との比較	(知識) 定期考査 (技能) 提出作品 手本の捉え方	(知能) 定期考査 (技能) 提出作品 自分の弱点の克服 学習態度

●いつ、何を学ぶか【学習内容】

学期	学 習 内 容	学習活動・ねらい
1 学 期	楷書の古典の線質、字形、構成等の理解。 九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑、雁塔聖教序、 牛欄造像記、鄭羲下碑、顔氏家廟碑 等の 鑑賞と臨書を通して、基本点画を理解する。	小中学校までの書写学習をふまえ、新たに古典学習へと発展。楷書の古典の線質、字形、構成の表現効果や風趣との関わり、中国の文字との関わりを理解する。(知識)
2 学 期	行書の用筆や線質、字形、構成等の理解。 蘭亭序、祭姪稿、風信帖の時代、書者、内容 表現方法を臨書、鑑賞し理解する。	行書の基本を理解した後で、王羲之や空海の古典に親しむ。王羲之や顔真卿の行書の古典の線質、字形、構成の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化について理解する。(知識)
3 学 期	小筆による用筆や、線質、全体構成への理解。 いろは歌で平仮名の単体を学ぶ。仮名の成立と発達、仮名の種類、用筆法など基本的な筆使いについて学ぶ。高野切第三種の鑑賞と臨書を通して古典のもつ、美を学び理解する。	仮名の成立過程から平仮名、カタカナ、連綿、創作に発展。仮名の書の古典に基づく基本的な用筆、運筆や線質、字形や構成を活かした表現の技能を身につける。(技能)